

12. 不連続粒度の骨材がコンクリートのスリーピングに

徳島大学工学部土木教室 荒木謙一

ここに著者の行った実験の結果、適当な不連続粒度の骨材は単位容積重量が大きくかつこれを用いたモルタルまたはコンクリートは連続粒度のものよりウオーカビリチーが大きく単位水量従ってセメントを減らすことができる。そこで今回はフリージンスに対する不連続粒度の影響を $\frac{w}{c}$ を一定とし、不連続部分の位置（範囲）を種々に設け、連続粒度のものと比較実験した。その結果細骨材の適当な不連続粒度のものは同一粗粒率の連続粒度のものよりフリージンスが小である。また同一粒度の細骨材を用い、粗骨材だけを不連続粒度とした場合はその影響は少かった。